

紫峰の風

shihou no kaze



筑波大学
University of Tsukuba
第7号 2018年2月

「紫峰の風」は学生生活の様子や活動の報告を、紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降りる風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへとお届けする」という意味が込められております。



写真左上から：学生委員会企画「チャンバラ合戦」を楽しむ参加者／正式種目「サッカー」の試合での一幕
正式種目「駅伝」でタスキを渡した瞬間／閉会式後、胴上げされる第41代スポーツ・デー学生委員会委員長

秋季スポーツ・デーを終えて

11月18日と19日に第41回秋季スポーツ・デーが開催されました。1日目は天気が崩れてしまいましたが、みんなの強い思いが届いたのか、2日目は暑さを感じさせるほどの快晴となり、最高のスポーツ・デー日和となりました。延べ4,989人もの方に参加していただけたこと、参加者の皆さんのたくさんの笑顔を見られたことを大変喜ばしく思います。

また、第41回スポーツ・デー開催に際し、筑波大学紫峰会基金より、援助金100万円の御支援をいただきました。学内スポーツ活動の振興に寄与するため、そして多くの学生・教職員にスポーツ

を楽しんでもらうために有効に使わせていただきました。
来年度以降もより良いスポーツ・デーを目指し、委員一丸となって頑張っていきますので、変わらぬご支援のほどよろしくお願い致します。
(寄稿／第41代スポーツ・デー学生委員会委員長 百瀬彩・創成3年)

今後の主な予定 (変更になる場合があります)

| | |
|----------------------|------------|
| 春季休業 | 2月17日～4月5日 |
| 同(東京キャンパス・夜間) | 2月14日～4月6日 |
| 卒業式・大学院学位記授与式 | 3月23日 |
| 同(東京キャンパス・夜間) | 3月24日 |
| 入学式 | 4月6日 |
| 同(東京キャンパス・夜間) | 4月7日 |
| 新入生歓迎祭本祭 | 4月6日 |
| 新入生オリエンテーション(学群) | 4月6日～11日 |
| 新入生オリエンテーション(大学院) | 4月6日～9日 |
| 同(東京キャンパス・夜間) | 4月7日 |
| 授業開始(大学院・東京キャンパス・夜間) | 4月10日 |
| 授業開始(学群) | 4月12日 |
| 春季スポーツ・デー | 5月12日、13日 |

内容

| | |
|---|-------|
| キャンパスニュース、課外活動団体構成員数一覧 学生相談室から、桐の葉日記、筑波大学の風景 | 1頁 |
| 留学情報、学生の一週間 大学院進学報告、卒業式・入学式のご案内 | 2頁 |
| 特集：広い筑波大学マップ+宿舍 | 3頁 |
| 芸サ連、体育会、全代会、文サ連活動紹介 | 3, 4頁 |

キャンパスニュース



写真左上から：共通点探しゲームを行う系別会参加者(体育会)／参加者全員による集合写真
参加者の出身地別に集まり作った人間日本地図(右上から北海道)／系別会の様子(文化系サークル連合会)

リーダー研修会を終えて

12月9日及び10日に、平成29年度課外活動団体リーダー研修会が国立赤城青少年交流の家で実施されました。この研修会は、文化系サークル連合会・体育会・芸術系サークル連合会に属する部活動・サークルの責任者や役員が集まり、組織や団体のあり方や意義について学ぶ行事です。私ども実行委員会は2017年1月から内容について話し合っていました。本年度は非常に寒い中での開催でしたが、他団体が少なかったこともあって講堂その他多くの活動場所が確保でき、快適で有意義な研修が行えたと思っております。

ます。
課外活動団体リーダー研修会は、皆様のご寄附をもとにした筑波大学紫峰会基金より援助金40万円を支援していただきました。学生の宿泊費の軽減や研修会の内容にかかる費用として大変有効に使わせて頂きました。ご支援、誠にありがとうございました。
(寄稿／平成29年度課外活動団体リーダー研修会実行委員会 実行委員長 増本駿一・応理3年)

キャリア・インタビュー

平成29年11月、本学大会館において、キャリア・インタビュー2017を開催しました。

キャリア・インタビューは、学生のキャリア形成及び進路選択・就職活動支援の一環であり、学群・大学院の卒業生・修士生や、東京地区の社会人大学院現役生などの本学の多様な人々等インタビュー相手として、平成17年から現在まで継続している交流イベントです。

社会人との交流の中で、生きた経験やキャリア観を得て視野を広げ、将来について考えを深めるとともに、社会に出る前の大学生活を有意義に過ごし、自らの進路選択や就職活動に取り組むきっかけ作りとなればという狙いがあります。

イベントは、社会人1名と学生数名のグループに分かれ、グループを変えて複数回の交流を行う形で進みます。これにより学生は、3～4名の社会人とじっくり話す機会が得られることになります。

学生は、進路選択や就職活動に関する悩みがある、OB・OGだか

らこそ聞けるリアルな話を聞きたい、多様な経験や価値観に触れて自分の幅を広げたい、などの理由で参加しており、グループ内では社会人や学生自らのキャリア等に関する質問や話題が繰り広げられます。終了の声掛けを行ってもなかなか話が止まらないほどの盛り上がりがあり、毎年の光景となっています。

学生からは、多様なバックグラウンドを持つ社会人と話をする中で、自分の強みや軸を再発見できた、将来に対する視野や選択肢が広がった、モチベーションが高まり有意義だった、などと好評を得ています。

また、ここでの気づきを経て、自己分析や業界研究を深める、専門分野の学修や研究に一層力を注ぐ、など明日からの具体的なアクションに繋げていこうという感想も多く聞かれます。

学生部就職課では今後も、多くの学生にこのような機会を提供することを通して、学生のキャリア形成及び進路選択・就職活動の支援に努めたいと考えています。(寄稿／学生部就職課)



| 文化系サークル連合会 | |
|--------------------|---------|
| 団体名 | 構成員数(人) |
| I.T.C. | 5 |
| アマチュア無線クラブ | 16 |
| Amusement Creators | 18 |
| E.S.S. | 19 |
| 池坊華道部 | 11 |
| 囲碁部 | 12 |
| 宇宙工学研究会 | 21 |
| 映画研究部 | 37 |
| SF研究会アルビレオ | 12 |
| 園芸クラブ | 15 |
| 海洋研究会 | 35 |
| 写真部さくら組 | 14 |
| 歌留多部 | 45 |
| 斬桐舞 | 48 |
| 現代視覚文化研究会 | 70 |
| 茶道同好会 | 32 |
| 茶道部和敬清寂社 | 29 |
| 山岳旅の会 | 12 |
| 社会福祉研究会 | 212 |
| 手話サークル | 24 |
| 将棋部 | 29 |
| 図画団 | 19 |
| ストーリーテリング研究会 | 13 |
| T.A.S.C. | 20 |
| 筑波大鉄研「旅と鉄道の会」 | 26 |
| つくば鳥人間の会 | 27 |
| 筑波文学の会 | 13 |
| 天文研究会 | 62 |

| | |
|----------------------|-----|
| TOJO K-ON | 132 |
| ねっしー・自然教育研究会 | 62 |
| 文芸部 | 28 |
| マジシャンズクラブ | 19 |
| 漫画研究会 | 24 |
| 野外活動クラブ | 25 |
| 野生動物研究会 | 35 |
| 歴史探訪会 | 26 |
| CLOVER～難民と共に歩むユース団体～ | 21 |

| 芸術系サークル連合会 | |
|-----------------|---------|
| 団体名 | 構成員数(人) |
| アカペラサークルDoo-Wop | 125 |
| E.L.L.(筑波軽音楽協会) | 121 |
| 応援部WINS | 78 |
| 合唱団むくどり | 12 |
| 管弦楽団 | 109 |
| ギター・マンドリン部 | 29 |
| 劇団筑波小劇場 | 19 |
| 混声合唱団 | 41 |
| ジャグリングサークルSheep | 16 |
| 写真部 | 40 |
| JAZZ愛好会 | 43 |
| 書道部 | 31 |
| 吹奏楽団 | 58 |
| 津軽三味線倶楽部無絃塾 | 49 |
| 筑波音楽協会 | 61 |
| 筑波能・狂言研究会 | 11 |
| つくばフォーク村 | 35 |
| THK筑波放送協会 | 35 |
| ときめき太鼓塾 | 11 |

| | |
|-----------------|----|
| 人形劇団NEU | 9 |
| ピアノ愛好会 | 95 |
| ViCC-映画をつくる会- | 11 |
| folklore愛好会 | 18 |
| 舞踏研究会 | 17 |
| ブロックプレーテ同好会 | 15 |
| 邦楽部 | 34 |
| ミュージカル集団ESSASSA | 60 |
| 落語研究会 | 31 |
| 男声合唱団メンネルコール | 11 |
| ジャズ楽団 | 36 |

| 体育会 | |
|---------------|---------|
| 団体名 | 構成員数(人) |
| アーチェリー部 | 24 |
| 合気道部 | 9 |
| アイススケート部 | 11 |
| 男子アイスホッケー部 | 26 |
| 女子アイスホッケー部 | 16 |
| アメリカン・フットボール部 | 43 |
| オリエンテーリング部 | 52 |
| 鹿島神流武道部 | 25 |
| 空手道部 | 11 |
| 弓道部 | 25 |
| 剣道部 | 44 |
| 硬式庭球部 | 32 |
| 硬式野球部 | 105 |
| サイクリング部 | 61 |
| 女子サッカー部 | 17 |
| 蹴球部 | 118 |
| 柔道部 | 46 |

| | |
|-------------|-----|
| 準硬式野球部 | 22 |
| 少林寺拳法部 | 4 |
| 水泳部 | 56 |
| スキー部 | 11 |
| 漕艇部 | 14 |
| 男子ソフトボール部 | 32 |
| 女子ソフトボール部 | 10 |
| 体操部 | 18 |
| 体操競技部 | 28 |
| 卓球部 | 33 |
| ダンス部 | 21 |
| トライアスロン部 | 40 |
| 軟式庭球部 | 17 |
| 馬術部 | 17 |
| 男子バスケットボール部 | 54 |
| 女子バスケットボール部 | 21 |
| バドミントン部 | 34 |
| 男子バレーボール部 | 15 |
| 女子バレーボール部 | 17 |
| 男子ハンドボール部 | 25 |
| 女子ハンドボール部 | 18 |
| フィールドホッケー部 | 11 |
| ヨット部 | 4 |
| ライフセービング部 | 6 |
| ライフル射撃部 | 15 |
| 男子ラクロス部 | 40 |
| 女子ラクロス部 | 23 |
| ラグビー部 | 105 |
| 陸上競技部 | 239 |
| 剣道同好会 | 23 |

| | |
|--------------|-----|
| サッカー同好会 | 64 |
| トランポリン同好会 | 31 |
| バスケットボール同好会 | 29 |
| バドミントン同好会 | 149 |
| バレーボール同好会 | 20 |
| ハンドボール同好会 | 10 |
| フェアリースキークラブ | 22 |
| ワンダーフォーゲルクラブ | 56 |

| 体育会医学部会 | |
|-------------|---------|
| 団体名 | 構成員数(人) |
| 医学アイスホッケー部 | 46 |
| 医学空手道部 | 13 |
| 医学弓道部 | 67 |
| 医学剣道部 | 27 |
| 医学硬式庭球部 | 98 |
| 医学ゴルフ部 | 67 |
| 医学サッカー部 | 45 |
| 医学準硬式野球部 | 45 |
| 医学水泳部 | 101 |
| 医学スキー部 | 22 |
| 医学ソフトテニス部 | 45 |
| 医学卓球部 | 24 |
| 医学バスケットボール部 | 33 |
| 医学バドミントン部 | 90 |
| 医学バレーボール部 | 34 |
| 医学ハンドボール部 | 59 |
| 医学ヨット部 | 17 |
| 医学ラグビー部 | 42 |
| 医学陸上競技部 | 78 |

学生相談室から

受付窓口 029-853-2415
電話相談 029-853-2406

「顔と顔」 保健管理センター精神科 太刀川弘和

新年おめでとうございます。早いもので今年度も残り僅かとなりました。ところで、最近お正月に実家に帰らない学生が増えてきています。この中には留年の恐れや就職、卒論の難航といった悩みを親に言えずに帰りにくい学生もいます。こういう話を聞くと、前向きな教員は、「就職失敗でも、また来年やり直せばいい」「大学だけが人生じゃないよ」と言います。ところが、こんな励ましをすると、多くの学生はわかってくれないと怒り出すか、先生を替えてくれ、と言い出します。なぜ、悩んでいるのに、知られることを恐れ、励ましを拒絶するのでしょうか？

理由の一つに、「フェイス」の問題があるかもしれません。これは社会学者のゴフマンが提唱した概念で、「面子」や「対面」をより日常的に捉えたものを指します。あらゆる社会場面に我々はそれぞれのフェイスを通して参加しています。私で言えば、「精神科

医」「大学教員」のフェイスで、今コラムを書いています。しかしこのフェイスは環境によっては周囲に受け入れられません。自治会の集まりで「私は精神科医だが」と専門家フェイスで参加すれば、たちまち「あいつは偉そうに」と言われて孤立するでしょう。社会関係でフェイスを失う、つまり面目を失うと、それはスティグマ(烙印)となり、こころの健康に大きな悪影響を及ぼします。

筑波大学の多くの学生は、高校まで「比較的成績優秀」で、「比較的安定的な職業につく」というフェイスで生きてきました。そのフェイスがはがされることは、彼らにとって恐怖です。このため悩みを打ち明けられず、ゆううつになり、引きこもることもあります。顔の見えないネットのやりとりではなおさらです。そんな彼(彼女)に関わる時には、そのフェイスを傷つけないよう、まず理解する気持ちを、できればLINEではなくフェイス to フェイスで伝えることが重要です。

とはいえ、偉い人には愛想笑いで、目下とみるや「そんな話は聞いてない」と怒り出す最近余裕のない大学教員の方が、学生より余程フェイスの問題があるかもしれません。

桐の葉日記

冬もいよいよ深まり、凍てつくような寒さに震える日々が続いています。読者の皆様はこの紫峰の風が届く頃には、春を待ち遠しく思う心がますます募っていることでしょう。

私が紫峰の風の編集に携わって、およそ二年が経ちました。今年の春には大学を卒業するため、この編集の仕事もそろそろ終えることとなります。

私自身、まさか大学で広報誌の編集をすることになるとは思ってもいなかったのですが、就任当時は途方に暮れた状態でした。以前から漠然と編集や出版関係の仕事には興味を持っていたのですが、いざ取り掛かってみると想像以上に大変なものでした。原稿の依頼先に何度もメールを送ったり、担当する記事の原稿を管理したり、実際にイベントの取材に赴き記事を執筆したり、様々な仕事を経験しました。一つの広報誌を完成させるために、多くの作業を積み重ねていく努力が必要なのだ実感しました。しかしそうした苦労があったからこそ、完成した際の喜びもひとしおです。

編集を通して様々な苦労と喜びを味わいましたが、この経験は大学生活の中でも忘れられない貴重なものになるでしょう。多くの

方々の協力を得て記事を集め、何度も話し合いを重ねてより良い企画を作っていく。その過程で上手くいかないこともしばしばあります。しかし解決のために苦悶し、それを乗り越えることで一つの広報誌が完成するのです。このような努力が反映されて、今後も皆様に紫峰の風をご愛読していただければ誠に幸いです。

(文責/広報部会 村上優衣・人文4年)

大学の風景



松美池のほとりにたたくむカルガモ

留学情報

グローバル・commons機構
学生部 学生交流課

～ Go Abroad ! ～

本学は、開学以来、「開かれた大学」という理念のもとに、国際交流を積極的に促進してきました。また、本学のミッションとして、「地球規模課題の解決に向けた知の創造とそれを牽引するグローバル人材の育成」を掲げています。その結果、現在では66カ国・地域の大学や教育研究機関と345に及ぶ協定を結んでおり、例年4,000人以上の留学生を受け入れ、2,000人以上の学生を海外へ派遣しています。

しかし、グローバル社会が大学に求めている国際化は日々複雑化し、あらゆる分野で世界に貢献できるグローバル人材が必要とされています。このニーズの変化に対応するため、本学は多様な教育・研究の国際交流プログラム等を準備してきました。教育面では、従来の大学の国際化の主流となっていた交流協定に基づいた学生の交流に加え、ダブル・ディグリーやジョイント・ディグリー、サーティフィケート授与等を組み込んだ共同教育プログラム、インターンシップやフィールドワークを含めた国際交流プログラム等を積極的に推進しています。

以下に、本学の留学制度について、簡単にご紹介します。

◆交換留学

本学と学生交流協定を結んでいる海外の大学(以下「協定校」)に、所属教育組織の長の許可を得て留学することを「交換留学」といいます。

交換留学の場合、留学期間は本学の修業年限および在学年限に編入され、留学先で取得した単位は、教員会議等の議を経て、一定条件のもとで本学の卒業要件単位として認められます。さらに、授業料相互不徴収の取り決めがある協定校では、留学先大学での授業料は不徴収となります。留学期間は1学期～1年(最大2年)です。

◆Campus-in-Campus(CiC)

Campus-in-Campus(CiC)とは、CiC協定を締結した海外の大

学と筑波大学との間で、学生、教員、研究者、職員が大学の壁を越えて活動するために、相互に、研究教育環境をキャンパス内に取り込み活用することを目指します。2017年12月現在で6カ国・地域の大学と7協定を結んでいます。

CiC大学において「科目ジュークボックス」に登録されている科目は本学の開設科目として履修でき、取得した単位は卒業要件単位として認められます。また、留学先大学の授業料は不徴収となります。留学期間は1学期～1年です。

◆短期海外研修

本学の教育組織等が実施する海外研修プログラムに参加するものです。内容は語学研修、専門的な講義の受講、海外での実地研修等プログラムによって様々です。プログラムによっては本学の開設科目として実施され、単位が付与される場合があります。また、参加費・受講料が必要となる場合があります。留学期間は1週間～1ヶ月程度が多くなっています。夏季・春季休業期間中に実施されるプログラムもあります。

(QRコード)大学HP-国際-グローバル・commons機構



本学が目指すグローバル人材は、「確固たるアイデンティティ」と十分な専門性を持ちながら多様性を活かす柔軟性を発揮し、あらゆる国、組織や分野の壁を越え、協力関係を構築し、グローバルな活動を牽引できる人材」です。本学の学生には、ぜひ在学中に本学が提供する国際交流プログラムにチャレンジして、グローバル社会に貢献できる能力を身に付けていただきたいと思います。

海外留学のための経済支援一覧

筑波大学では学内外からの各種経済支援により、学生の海外留学・海外派遣を後押ししています。

●筑波大学海外留学支援事業 はばたけ! 筑大生

| |
|---|
| ①国際交流協定校交換留学支援プログラム |
| 本学と海外の大学等との間で締結された学生交流協定に基づき、海外の大学等に留学する者を対象に、滞在費の一部を支援します。(月額上限80,000円) |
| ②キャンパスインキャンパス(CiC)等支援プログラム |
| CiCパートナー大学、又はダブルディグリープログラム、ジョイントディグリープログラム(DDP等)を実施する大学との間で締結されたプログラムに基づき、海外の大学で学修、調査、研究を行う者を対象に、旅費の一部を支援します。(上限150,000円) |
| ③海外武者修行支援プログラム |
| 優れた企画と発表能力を持って海外に出向き、現地での活動を行う者により任意結成された学生グループ(数人～7人程度)を対象に、旅費の一部を支援します。(1人あたり上限200,000円) |
| ④海外学会等参加支援プログラム |
| 海外で開催される国際学会、シンポジウム、研究集会へ出席して、研究発表を行う者を対象に、旅費の一部を支援します。(上限150,000円) |
| ⑤語学研修・海外研修参加支援プログラム |
| 本学主催または共同して海外において開催する語学学習を伴う研修プログラムまたは専門科目に関する学修、調査・研究などに参加する者を対象に、旅費の一部を支援します。(1人あたり上限100,000円) |

●筑波大学基金開学40+101周年記念募金海外留学支援事業

| |
|---|
| 協定校に短期間(1年以内)留学する学生に対して奨学金による支援を行います。(月額100,000円及び渡航費の一部) |
|---|

●官民協働海外留学支援制度 トビタテ! 留学JAPAN日本代表プログラム

| |
|--|
| 官民協働の海外留学支援制度として平成26年度からスタートしたプログラムで、自ら考えた留学計画に対して奨学金が支給されます。(月額60,000～160,000円) |
|--|

●日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度(協定派遣)

| |
|--|
| 教育組織等が実施するプログラムにより、8日以上1年以内の期間協定校に派遣される学生に対して、JASSOが奨学金を支給する制度です。(月額60,000～100,000円) |
|--|

学生の一週間

ここでは、筑波大生が実際にどのような生活を送っているのか、とある学生2名の一週間を紹介します。今回は秋学期Bモジュール(11月～12月)です。

2年生 Iさん

体育専門学群2年生のIさんはトライアスロン部に所属しています。体育専門学群では部活動の時間を確保するため、基本的に6限(16時45分～18時)の時間帯の授業がありません。そのため、週5日の朝練や夕方の部活動があっても、自分で自由に使える時間を確保でき、授業課題に取り組んだり、アルバイトをする余裕があります。土日の午後なども趣味の時間に充てることが可能です。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----|-------|------|-------|-------|-----|--------|-----|
| 6 | 睡眠 | 睡眠 | 睡眠 | 睡眠 | 睡眠 | 睡眠 | 睡眠 |
| 7 | 朝練 | 睡眠 | 朝練 | 睡眠 | 朝練 | 練習 | 練習 |
| 8 | 朝食 | 朝食 | 朝練 | 朝食 | 朝練 | | 朝食 |
| 9 | 授業 | 授業 | 授業 | 授業 | 授業 | | 昼食 |
| 10 | 授業 | 授業 | 授業 | 授業 | 授業 | ミーティング | 昼食 |
| 11 | 授業 | 授業 | 授業 | 授業 | 授業 | | 練習 |
| 12 | 練習 | | 委員会活動 | | 練習 | | |
| 13 | 委員会活動 | バイト | 練習 | 委員会活動 | バイト | 夕食風呂 | バイト |
| 14 | 委員会活動 | | 夕食風呂 | 委員会活動 | | 夕食風呂 | |
| 15 | 夕食 | | | 夕食 | | | |
| 16 | 風呂等 | 夕食風呂 | | 風呂等 | | | 夕食 |
| 17 | 睡眠 | 睡眠 | 睡眠 | 睡眠 | 睡眠 | 睡眠 | 風呂 |
| 18 | | | | | | | 睡眠 |

3年生 Nさん

知識情報・図書館学類3年生のNさんは、これまで所属していたサークルを引退したため、ゆとりを持った生活をしています。一週間の多くの時間を趣味のラジオ聴取や離れた友人とLineやSkypeでお喋りする時間に充てています。日付が変わる時間帯から始めるため就寝時間が不規則になっており、朝起きる時間がまちまちになっているのが特徴です。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 6 | 睡眠 |
| 7 | 朝食 | 朝食 | | | | | |
| 8 | 授業 | 授業 | 朝食 | 授業 | 朝食 | 朝食 | 趣味 |
| 9 | 授業 | 授業 | 朝食 | 授業 | 朝食 | 洗濯 | 昼食 |
| 10 | 授業 | 授業 | ゼミ | 授業 | 授業 | 買い物 | 昼寝 |
| 11 | 授業 | 授業 | 授業 | 授業 | 夕食 | | |
| 12 | 委員会活動 | 委員会活動 | 夕食 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と遊ぶ | 課題 |
| 13 | 委員会活動 | | 委員会活動 | | | | |
| 14 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 15 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 16 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 17 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 18 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 19 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 20 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 21 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 22 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 23 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 24 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 委員会活動 | 友人と交流 | 友人と交流 | 友人と交流 |
| 1 | 睡眠 |

大学院進学報告



理工学群物理学類 4年

藤井康丸

僕は大部分の学生と少し違い、3年生から編入してこの大学に入りました。僕はこれまで高専で学んでいましたが、高専卒業時に就職せず筑波大学に編入した理由は、

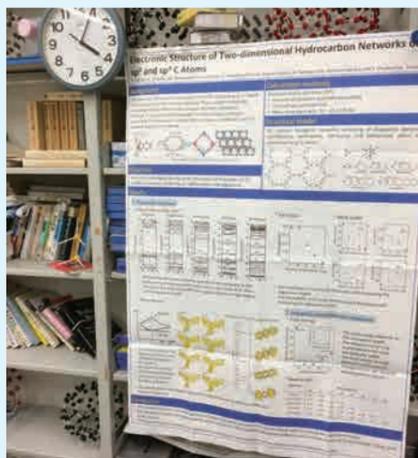
将来研究職につくことを目標としていたためです。研究職といっても様々ですが、自身の専門性を生かす形で職につくには、最低限大学院を出ておく必要があるのが一般的です。なので、入学するには既に大学院に進学することは決めていました。

このように書くと、まるで当時から僕が将来何をしたいか具体的に決まっているようにも見えますが、実はとても漠然としていて、何を研究したいのかも不確かなまま編入しました。というのも僕は高専では機械工学を専攻しており、物理を具体的に勉強したのは筑波大学に編入してからでした。編入してから、少しずつやりたいことの方角性も見えてきた気がしますが、やはりまだよく分かりません。大学院試験は、少しなめてかかっていたため、かなり危なっかしい感触でしたが何とか合格できました。

僕は今、より具体的には教授や高専の教員という形で、興味のある研究を続けていくことが出来れば良いと思っています。そのためには大学院の博士後期課程に進むことが必要となってきます。そ

うなると、いくらかの覚悟が必要になります。本当に教授を目指すのか、博士前期課程修了時に就職するのかくらいは、そろそろ決断しないといけません。大学院に進学した後は、まずは今の研究室での研究を中心として将来自分がどのような研究者になりたいのかを突き詰めていければと思っています。

高専の同期の多くが就職し、自分で生活している中、自分のやりたい道を進ませてくれている両親にはとても感謝しています。今後もこの気持ちを忘れずに、自分の道を求めていけたらと思います。



フラレン・ナノチューブ・グラフェン学会へ参加したときのポスター



情報学群情報科学類 4年

住谷雄樹

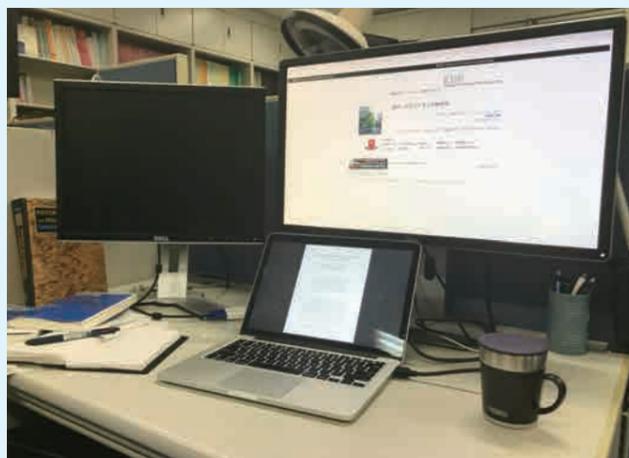
初めまして、来年度よりシステム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻に進学することとなりました、住谷雄樹と申します。特に大学院進学を考えておられます学部3年生の方々、またその保護者のみなさまにとって本稿が有意義なものとなれば幸いです。

さて、大学院入試といいますがと研究科・専攻毎に違いはございますが、大半は「研究」というものにまだ殆ど触れたことがない時期に訪れるのではないのでしょうか。

本稿を通じて、現在大学院への進学を考えている方に向けてまして研究生生活とはどのようなものであるか、その一例として私の考えを記載しておこうという次第でございます。

研究室に配属されてまだ8ヶ月ほどの私ですが、研究には自分の考えている以上に様々なファクターが絡んでおり、非常に難しい反面やりがいのあるものであると感じております。蓄えた知識を活かして実験をすることはもちろん、それをスライド形式にまとめたり、人前で発表したりといった「伝える」ということがとても大切で、それが思った以上に難しいことを痛感しております。研究には知の探求と

いった社会的意味がありますが、それを実行している個人に対しても大きな成長を促すものと考えております。研究を通じて身につけた論理的思考力・プレゼン力・忍耐力などは、たとえ将来の生業が研究でなくとも大いに役立つことでしょう。そういう意味では人生の貴重な2年間を研究生生活に費やすというのは、非常に価値のある選択だと思います。ぜひ本稿以外にも様々な情報を集めて、研究生生活について具体的なイメージを掴んでください。



研究デスク

平成29年度 卒業式のご案内

■日時 平成30年3月23日(金)
■会場 筑波大学 大会館講堂

【第一回】

対象組織：人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設

入場 8:50~9:10
開式 9:30
閉式 10:15

【第二回】

対象組織：生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群

入場 10:50~11:10
開式 11:30
閉式 12:10

平成30年度 筑波大学入学式のご案内

■日時 平成30年4月6日(金)
■会場 筑波大学 大会館講堂

【第一回】

対象組織：人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設

入場 8:40~9:10
開式 9:30
閉式 9:55

【第二回】

対象組織：生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群

入場 10:40~11:10
開式 11:30
閉式 11:55

平成29年度 大学院学位記授与式のご案内

■日時 平成30年3月23日(金)
■会場 筑波大学 大会館講堂

入場 13:10~13:40
開式 14:00
閉式 14:55

平成30年度 筑波大学大学院入学式のご案内

■日時 平成30年4月6日(金)
■会場 筑波大学 大会館講堂

入場 13:10~13:40
開式 14:00
閉式 14:25

※式の時間については予定時刻となっております。進行の都合上、変更となる場合がございますので、ご了承ください。

卒業式・大学院学位記授与式、入学式・大学院入学式 共通連絡事項

ご家族の方は、講堂収容定員の関係により大会館内の別会場でのスクリーン視聴となりますことをご承願います。また、式典は、当日インターネット中継を行います。中継URLは式典前日に本学ホームページにてお知らせいたします。なお、駐車場は非常に数が限られておりますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

詳細は、本学ホームページをご確認願います。

<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/ceremony/>

問合せ先：筑波大学総務部総務課 029-853-2025 (平日 8:30-17:15)



宿泊施設・館内食堂のご案内

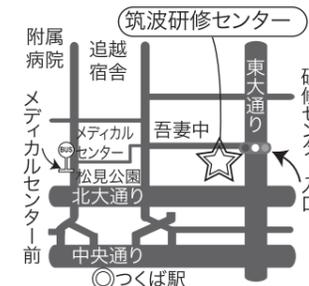
紫峰会基金協力者と旧紫峰会会員の方は1泊200円割引します

筑波研修センター ・1泊3700円より(食事別)
・シングル145室・ツイン5室・和室5室

筑波大学同窓会「茗溪会」の関連法人「(一財)筑波学都資金財団」が運営する宿泊施設です。電話予約は7時から24時まで受け付けています。割引対象の方は予約受付の時にお申し出下さい。

館内食堂 こうせい

・朝食500円均一
・定食750円より
バイキング形式、懇親会、パーティも承ります。内容、料金など気軽にご相談ください。
(座席80名・立食可)



〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
Tel 029-851-5152 Fax 029-851-8886

E-mail center@meikei.or.jp URL <http://www.meikei.or.jp/~center/>

紫峰の風 第7号 2018年2月発行

発行 事業開発推進室

編集 学生部学生生活課

学生広報会議(山岸素子・知識1年、舟久保拓哉・情報1年、

川村風太・生物2年、戸口海人・比文1年、

安斎彩季・創成1年、十川澄・資源1年、

徳永光太郎・医学1年)

広報部会(黒川真臣・生命環境2年、山岡光瑛・シス情1年、

米山和文・数理物質1年、清野晃平・生物4年、

村上優衣・人文4年、仲清峻・知識3年)

タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸専2016年度卒)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話：029-853-5886

E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

広い筑波大学 + 宿舎 マップ

筑波大学は数ある大学の中でも広大なキャンパスを持つ国立大学です。多くの筑波大生は自転車やバスで講義棟を移動しています。ここでは、多くの新入生が入居する宿舎や、自転車で移動する際に注意したいキャンパス内のポイントを紹介します。

大学会館前の坂

大学会館前には大きな坂が存在し、教室移動時などは多くの自転車が狭い道を走っています。人が多い時間帯は特に対向車や歩行者に注意を払って移動することが大事です。

第一エリアと大学会館エリアとの間にある合流地点。授業間の移動の際は特に混雑するため、反対側から向かってくる自転車に注意する必要があります。

平砂宿舎は、体育・芸術エリアのすぐ南に位置しています。平砂共用棟には大浴場や食堂などの施設が備えてあり、学生は気軽に利用することができます。また、5月には宿舎祭(通称「やどかり祭」)が平砂を会場として催されるため、当日は多くの人で賑わうことになります。

追越宿舎から平砂宿舎に向かう通り



追越宿舎は平砂宿舎を南に行った先に位置しており、医学エリアへのアクセスに都合がよいです。そのため医療系の学生が多く入居している印象が強いです。共用棟の中には美容室や電気店がある。宿舎群に囲まれた、ベンチの置いてある広場もあり、のどかな空気を楽しむことができそうです。

筑波大学循環右回りコース

第二・三エリアの地面

第二エリア、第三エリアの一部の地面はレンガになっており、雨天時は大変滑りやすくなっているため歩行者も自転車も注意が必要です。

共用棟から見た平砂宿舎の風景

←TXつくば駅



春日宿舎

春日宿舎は春日エリアの講義棟のすぐそばにあり、主に春日エリアに通う学生や医学群の学生に利用されています。つくば駅に近いので、買い物しやすく交通の便がいい宿舎だと言えるでしょう。

体芸エリアの通路



体育・芸術エリアでは、通路の一部に駐輪場が設置されています。その部分は道幅が狭くなっているため、大勢の学生が移動する授業間などは混雑しやすいです。

筑波大学循環左回りコース



一の矢宿舎共用棟

一の矢宿舎の周りは豊かな自然に囲まれています。近くには兵太郎池や植物見本園があり、自然が好きな学生には適した立地です。共用棟には管理事務室の他、理容室や電機屋、売店があります。一の矢宿舎は居住棟の数が他の宿舎よりも多く、筑波大学の全宿舎居住棟の半分が一の矢宿舎にあります。また、世帯用の棟や二人部屋などもあります。



文化系サークル連合会活動紹介 ～文サ連をもっと知りたい～

CLOVER～難民と共に歩むユース団体～

私たちCLOVER～難民と共に歩むユース団体～は、東日本入国管理センターの被収容者の方々に寄り添うことを理念に掲げ、活動しています。東日本入国管理センターは、難民申請の不受理など、様々な理由で日本での滞在ビザが得られなかった方々が収容される、牛久市にある施設です。私たちは普段、その被収容者の方々のために、施設への面会活動やグリーティングカード、日本語学習教材などの差し入れを行っています。また日々の活動と並行して、入国管理センターの問題も含めた難民問題の啓発のために、イベントも開催しています。その一環として、2017年の12月には、「なんみんフェスティバル」を開催しました。

なんみんフェスティバルの目的は、来場者の方に五感を使って難民に関する問題・知識に触れてもらい、私たちが取り組む問題をより身近に感じてもらうこと、そして自分なりの気づきを得てもらうことでした。当日は、難民問題・入管の問題について各CLOVERメンバーが様々な角度から取り組んだ展示や、難民支援協会の方などゲストを迎えてのトークショーを行い、来場者の方とメンバーがより深くディスカッションできる場も設けました。来場者の方は、展示やディスカッションを思い思いに楽しみ、難民問題・入管の問題をより身近なものとして感じていただけたようでした。またメンバー自身も、展示の制作やトークショーを通して新たな知見を得ることができたようで、とても実りの多いイベントとなりました。

(寄稿/CLOVER～難民と共に歩むユース団体～

代表 柳沼茜音・心理2年)



大会での競技の様子

歌留多部

歌留多部は、文化系サークル館和室で週3日活動しています。部員は50人弱で、高校生の時からかたるたをしている人もいますが、多くは大学でかたるたを始めた初心者です。

私たちの目標は、毎年8月に行われる大学選手権と3月に行われる職域学生かたるた大会という団体戦で上位に進出、そして優勝することです。そのため、大会前は合宿や集中練習をして、精神・技術の強化を図ります。また、個人戦は全国各地で行われており、昇級・昇段を目指して多くの部員が遠征をしています。そして何より、一番大切なのはかたるたを楽しむことであり、練習の合間に笑顔が飛び交う雰囲気大切に、これからも部員一同活動していきたいと思っております。

(寄稿/歌留多部会長 姫氏原慎也・社工2年)

筑波文学の会

筑波文学の会は週に一度、自作の小説や詩を持ち寄り互いに批評し合う合評を活動の基本とし、その集大成として年に2回、機関誌「筑波文学」を発行しています。合評においてはただ作品を評価するのみに留まらないよう、その作品に足りないものはなにか、余計な部分はないか、など次の創作をより良いものにしてという観点で議論を行っています。また、冊子の発行に当たっても、作品の合評・改稿、選考会による掲載作の選定、細かい文章表現を修正する編集会などを行い、質の向上を目指しています。その甲斐あり、会員数は少ないながらも一定の質を保った冊子を発行できているものと自負しております。もちろん、それなり程度で満足せずに、よりよいものを、と求めなければなりません。

文学の会内部の活動だけでなく、大学内、大学外の交流にも手を広げています。大学内で、昨年度は漫画研究会さんと、今年度は図画団さんと、それぞれの持ち寄った絵を題材に小説を、小説を題材に絵を、という形で合作企画を行い冊子の発行や学園祭における展示を行いました。また大学外へのアプローチとして、文学フリマ(文学を自称する同人誌の即売会)への出展も行いました。文学を志す人口の減少に伴い、少数精鋭とならざるをえなかった筑波文学にとり、サークル外部の方々と交流が、会員それぞれの文学観や創作の種類を問わない芸術観を広げる場として、また筑波文学の読者を増やす場として機能すればと望んでおります。

(寄稿/筑波文学の会 岡田岳陽・地球3年)



飛び立つ前の様子

つくば鳥人間の会

つくば鳥人間の会(通称TBW)は、毎年夏に琵琶湖で開催される「鳥人間コンテスト」でお馴染みの人力飛行機を製作しています。人間ひとりだけを飛ばすための機体には軽量かつ丈夫なカーボン素材が使われており、全長30mでありながらその重量はたったの35kg。総工費200万円にもなる、社会人も顔負けの一大プロジェクトです。人の命を飛ばすという重圧は勿論ありますが、1年かけて仲間と協力しながら作り上げた機体が飛び瞬間は何物にも代えがたい大切な経験になります。今年も来たる鳥人間コンテストに向けて機体製作中です。会員一同懸命に作業に励んでおりますので、今後とも保護者の皆様の応援をよろしくお願い致します。

(寄稿/つくば鳥人間の会代表 真下広輝・エシス2年)

芸術系サークル連合会活動紹介 ～芸サ連をもっと知りたい～



学園祭にて大道芸をしているワンシーン

ジャグリングサークルSheep

ジャグリングサークルSheepは、ジャグリングのパフォーマンスやバルーンアートの作成等を行っています。普段の活動では、実に多種多様なジャグリングの道具から各々好きなものを選んで練習しています。春と夏に合宿も行っており、好きなだけ練習ができる上、メンバー同士の友好も深められる良い機会となっています。

また、外部からの依頼や春期の公演、まつりつくばや学園祭にてパフォーマンスを披露したり、バルーンの販売・配布をさせてもらっています。

ジャグリングは個人競技になりがちですが、不思議とメンバーの仲は良く、互いにいい具合に影響し合っていると思います。きっと素敵なものをお見せできると思いますので、機会があれば是非Sheepのパフォーマンスをご覧ください!

(寄稿/ジャグリングサークルSheep代表 日高達貴・生物2年)



2017年秋公演キャスト・スタッフ

ミュージカル集団ESSASSA

ミュージカルのサークルという珍しがられることも多いですが、私たちミュージカル集団ESSASSAは現在約60名で活動しています。

年に2、3回行う公演では、既存のミュージカル作品を上演することもあれば、団員が脚本を書いたオリジナル作品を上演することもあります。公演に出演するキャストは約3ヶ月間、毎日のように練習を重ねて本番を迎えます。また、舞台監督・舞台美術・照明・音響・衣装メイク・小道具などなど、一言にミュージカルといっても様々な種類のスタッフの力で成り立っています。サークルの魅力はそれぞれが自分の得意な事・好きな事を活かして舞台を作ることができることだと思っています。

(寄稿/ミュージカル集団ESSASSA 11期座長

関尾湖富・心理3年)



コンサートでのピアノ演奏の様子

ピアノ愛好会

筑波大学ピアノ愛好会です。当愛好会では、ピアノの練習だけでなく、内輪コンサートやミーティングなどの定期的な活動や、コンサートの開催等を行っています。ピアノというと専らクラシック系の音楽を演奏しているイメージが強いかもしれませんが、当愛好会ではジャズやアニソン等、様々なジャンルの音楽や、連弾などに挑戦する会員も多く、「ピアノ」というひとつの楽器を通して様々な音楽に触れることができます。1月20日にはつくばカピオのホールにてNew Yearコンサートが行われ、多くの愛好会員が出演し、ピアノの演奏を披露いたしました。また、上記以外にもサマーコンサート、学園祭コンサートなどを定期的に開催しており、毎度多くのお客様にご来場いただいております。コンサートの開催情報や日々の活動について、詳細はピアノ愛好会のWebページをご覧ください。

(寄稿/ピアノ愛好会会長 橋拓海・物理2年)



新人公演の合間に撮影した劇団員たち

劇団筑波小劇場

劇団筑波小劇場、通称:筑小(つくしょう)は、個性豊かな団員からなる筑波大の演劇サークルです。新歓公演や学園祭での学祭公演など年に4回の学内公演のほかに、その年々で夏公演や冬公演を行っています。活動内容は幅広く、役者や演出はもちろん、照明・音響などの裏方役職や、制作や舞台監督といった事務的な役職など、一つの舞台を作るために必要な役職すべてを団員で担っています。お芝居のジャンルもコメディから抽象劇まで幅広く行います。学生の方や、学内まで足を運んでくださった方々にお楽しみいただけるよう、日々練習と準備をしています。機会がありましたらぜひご観劇ください。

(寄稿/劇団筑波小劇場座長 南沢季実香・生物2年)

1年間を振り返って

文化系サークル連合会

第42期 運営委員長

古山 幹人 (人文社会学群人文学類3年)



12月31日の任期最終日に近づくにつれだんだんと任期最後となる定例の仕事が増え、冬の寒さとともに少しの寂しさも感じることが増えてきました。この運営委員長という立場となってから1年が経ちますが、例えばこの1年間はまさしくあっという間というよりほかありませんでした。

なんかかやで運営委員長となってからは文化系サークル連合会の所属団体やその他諸団体にとっての益を常々考え行動するようになってきたつもりでしたが、1年という期間は私のような愚才をもってしては事を起こすにはあまりにも短く、諸団体のためには全くと言ってよいほど何も為せなかったと思うばかりです。

しかしその中でも文化系サークル連合会内の他の運営委員や学生生活課の方々、その他大学職員の方々にも大いに助けられ、何とか任期の最終盤、次の代に引継ぎを行うところまでやってこられました。これらの方々をはじめとして私を支えていただいた方々には感謝の念しかありません。

さて、もう2018年からは次の第43期の運営委員の方々で文化系サークル連合会の運営委員を担っていくこととなります。いくらサークルの連合会といってもその運営を担っていくのは一人ひとりの運営委員であります。次の代の運営委員らの手によって2018年も文化系サークル連合会が更なる発展を遂げることを願って、最後のあいさつとさせていただきます。1年間ありがとうございました。

体育会

第41代 委員長

久田 陽介 (体育専門学群4年)



一昨年、結成40周年を迎えた筑波大学体育会は、次なる大きな節目である50周年に向けて歩み出しました。そこで第41代では、体育会のより一層の発展のためにも、「支え合い」というスローガンを掲げ、体育会構成員、団体の代表者、執行委員会、そして筑波大学体育会に関わる全ての人々が協力する体制づくりを今一度目指しました。

本年度も多くの団体や個人が輝かしい成績を収めました。また成績だけでなく、同じ時、同じ場所に集まった仲間たちとひとつの目標に向かって切磋琢磨し、力を合わせた経験は、私たちを大きく成長させ、今後の人生に欠かせない記憶となりました。このような素晴らしい体育会活動は、主務や会計等のマネジメントの役割を担う学生の「支え」の上に成り立っています。選手たちの血の滲むような努力はもちろん、その裏で必死に支える彼らの苦闘にも同等の賞賛を送るべきだと思います。これは、同好会の役員も同様です。この場を借りて、共に体育会を運営した皆さんへ「お疲れ様でした」という言葉を送りたいと思います。

さて今日の日本では、東京オリンピック・パラリンピックの開幕が刻一刻と迫る中、大学スポーツの産業化に着手しました。しかし、今後大学スポーツを取り巻く環境がどのように変化したとしても、主役は私たち学生です。是非これまでの体育会活動の魅力を見失わずに、今後益々発展してゆくことを祈っております。1年間、本当にありがとうございました。

芸術系サークル連合会

第41期 運営委員長

金子 真太郎 (人間学群教育学類3年)



芸術系サークル連合会（以下、芸サ連）とは、芸術系の学生団体からなる学生組織です。加盟団体の運営支援を主に行っており、各加盟団体から1名ずつ選出された運営委員によって芸サ連は運営されています。

去年の今ごろ、「芸サ連は組織として崩壊している」との先代の言葉から、我々の任期が始まりました。約40年前、活動に恩恵を得るために団体が連合し、団体の相互扶助による歴史をもつ芸サ連は、運営委員が目的意識もないままに、まるで犠牲者のように淡々と仕事をする組織へと変わり果てていました。先代の40期がこういった組織の体質を問題視して懸命に取り組んできたものを、我々41期も引き継いできたつもりです。

そして、42期運営委員会も発足しました。新執行部の8名は責任感も強く、1年間、芸サ連を牽引していってくれと思います。また、芸サ連全体をみても、その雰囲気は年々良いものへ変わっていると感じます。彼（彼女）らが、また、それを引き継ぐ後輩たちが、力強く自由を保持し続けていくことを願っています。

変化する芸サ連と、活躍する各団体に、今後ともご期待ください。

全学学類・専門学群代表者会議

平成29年度 議長

鈴見 祐悟 (理工学群物理学類3年)



今年度の全代会は、昨年度作り上げたノウハウを活用し、これまでに無い企画や活動を行いました。例えば「学長・副学長と筑波大学生との懇談会」の開催。これは昨年6月に行った学長と全代会構成員との茶話会において話題に上ったのがきっかけで、筑波大学生が直接、永田学長や副学長の方々に意見や要望を訴えかけられる機会を作ろうというのが目的です。翌月7月に第1回を開催し、多数の学生が学長や副学長と直接意見交換を行うことができました。さらに学生側、大学側からの好評を受け、今年1月には第2回を開催することもできました。他にも文字数の関係で割愛させていただきますが、「入試制度変更にかかる新たなクラス制度の形態模索」「全代会業務の見直し及び圧縮」「全代会の納会企画」など、紹介したい有意義な活動はたくさんありました。

我々全代会の役割は、筑波大学生一人ひとりの学生生活をより良くしていくこと。実は昨年度に引き続き、私は2期連続の代表として今年度も活動を進めてきました。形式や制度にとらわれずに全代会の本質を追求しつつ、2期目だからこそその知識やつながりを利用し、学生生活の質向上のため1年間活動してまいりました。2年間議長を務めたからこそ、これらを進めていけたことも事実です。この2年間の賜物を後世に引き継ぎ、より意味のある組織にしていってほしいと願っております。

全学学類・専門学群代表者会議活動紹介 ～全代会をもっと知りたい～

副学長等と全代会構成員との懇談会



発言する玉川副学長



懇談会の風景

今年度の副学長等と全代会構成員との懇談会（以下、副学懇）は、12月6日に行われました。副学懇を一言で説明すると、「学生と教員の意思疎通の場、大学の意思形成過程における学生の意向反映の場」です。これは毎年末に行われ、全学レベルでの学生の要望を共有する大切な会と位置付けております。

さて、今回われわれ全代会から提出した議題は「全代会の制度疲労の改善」というものです。今年度で42年目を迎える全代会に一部制度疲労を感じ、今後の運営を効率化、負担軽減化していくために提案しました。具体的に説明すると、現状全代会では、会議における構成員の出席率の低下、学内での存在意義の不明瞭化などの問題を抱えております。原因として考えられるのが、全代会構成員自身が、全代会で自ら活動することを負担に思い、メリットを感じられなくなっているのではないかとということ。大学や学生全体には寄与できても、全代会で活動する個人にとって直接得られる恩恵が少ないのではないかとということです。活動にある程度の時間を要するため、アルバイトや部活動・サークルに注力できない構成員もいます。また、一部の業務で形骸化が発生し、本来やるべき業務ができずにモチベーションを失っている構成員

もいます。これらを踏まえ、まずは全代会構成員にとって活動する意味のある組織にしたいというのが想いです。

提案の内容は、大学運営支援や役割を超えた業務の削減、下部組織である学園祭実行委員会（以下、学実委）やスポーツ・デー学生委員会との関係の改善などを大学側と協議しました。その上で現在は、学実委の制度変更や学類毎の新入生歓迎活動への支援変更、一部大学運営支援の削減などを行い、より効率良く全代会の本質である「学生目線から学生の生活環境、教育環境を討議し、大学側に提出する」活動を行える体制を整えております。また、全代会構成員のモチベーションが保てるよう、納会の開催も企画しております。

今回の副学懇では、全代会の制度疲労を解消し、全代会構成員自身が積極的に活動を頑張ろうと思えるような組織を作るための第一歩を踏み出せたと考えております。言葉だけの「やりがい」ではなく、構成員自身にとって真に意味を見出せる組織になってほしいと願うばかりです。

(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議議長 鈴見祐悟・物理3年)

調査委員会

[委員会紹介]

・活動目的

調査委員会は、学内における諸問題を各学生組織や個人から吸い上げ、教育環境委員会、生活環境委員会、全代会座長団と連携して解決するためにアンケート等でデータを調査、収集する活動を行っています。

・活動頻度

毎週火曜日の18時30分からミーティングを行っています。

[活動紹介]

・今年度までの活動

昨年度までの調査委員会は、人数不足や調査方法の不確立による調査内容の偏りが課題となっていました。そこで今年度は、平常通り学内の問題の発見及び調査の活動をしつつ、学生全体から意見を吸い上げられるような機構作りを並行して行いました。また、人数不足の解決策として、試験的に教育環境委員会・生活環境委員会と合同でミーティングやアンケート集計を行いました。

平常の活動では、

- ・第二エリアのチャイム鳴動時刻のズレについて
- ・学類ラウンジのロッカーについて
- ・講義の履修条件、出席評価について
- ・学内冷房の運転期間について
- ・一部の学類の無料印刷枚数の減少について

- ・クラス制度、Web掲示板の効果について
- ・クラス代表者会議、全代会の認知度について
- ・春日エリアの放置自転車について
- ・学生生活課の認知度について

の調査を、アンケート調査や実地調査などにより3委員会合同で行いました。その結果改善すべきであると判明した問題に関しては、学生生活課への交渉などにより解決しています。

また意見吸い上げの機構作りの活動では、全ての学生が調査委員会へ直接意見を送るフォームの整備をしています。今年度中にQRコードつきポスターの設置、広報委員会と連携して全代会Twitterアカウントでの告知などを行う予定です。

・来年度の目標

来年度は意見収集、調査の仕組みを安定させ、学内の問題解決に集中できるようにすることを目標とします。

今年度行った教育環境委員会・生活環境委員会と合同での活動は、結局活動が各委員会のものに分離してしまったことから来年度は行わない予定です。代わりに1年生を多数迎え入れ、各委員会が独立して活動できる規模になるよう努めてまいります。また座長団との連携もあまり取れていなかったため、難しい問題は意見聴取会や本会議で取り扱えるような形にしていきたいと考えています。

(寄稿/全学学類・専門学群代表者会議調査委員会委員 相川さくら・創成1年)

体育会活動紹介 ～体育会をもっと知りたい～



関東リーグ秋季リーグ第6戦の武蔵大学戦でボールをキャリアするRB(ランニングバック)

アメリカン・フットボール部

私たちアメリカン・フットボール部は、関東学生アメリカン・フットボールリーグ1部昇格を目標に日々活動しています。昨年は、株式会社ドームとの提携など様々な良い変化があり、最先端のアメリカンフットボールの知識と技術、また、安全対策などを取り入れることができました。現在はトレーニングの時期でフィジカルの強化に力を入れています。ウェイトのマックス値などは年々上がっており、それに伴って結果も残せるようになってきました。昨年の結果は2部リーグ3位と、近年で最も良い成績を残すことができました。

たくさんの方々を支えられ、追い風が吹いている今年こそは1部昇格を果たすべく、今までの取り組みを見直し、良いところは伸ばし、悪いところは改善して行きたいと思います。今年も応援よろしくお願ひ致します。

(寄稿/アメリカン・フットボール部主務 熊澤拓喜・社会4年)



2017 関東リーグ

女子サッカー部

女子サッカー部は、現在1～3年生の16名で活動しています。一時期は体育専門学群の学生がほとんどを占めていましたが、現在は体育専門学群以外の学生も多く所属し、人数は少ないながらも活気のある部活です。むしろ人数が少ないからこそ一人ひとりとのコミュニケーションが多く、先輩後輩関係なく誰とでも仲が良かったです。

昨シーズンは参加している関東大学リーグ、関東リーグともに降格してしまい、今シーズンは2部でリーグ戦がスタートします。

決して簡単な試合はないと思いますが、苦しくてもサッカーを楽しむ気持ちや、応援してくださっている方々や支えてくださっている方々への感謝を忘れることなく、選手とスタッフが丸となって1部昇格という目標に向かって精一杯戦います。

(寄稿/女子サッカー部主務 轟晴奈・体専3年)



第30回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

ダンス部

筑波大学ダンス部は現在19名部員がおり、体育専門学群のみならず、様々な分野で学んでいる学生が集まって活動しています。今年度は、8月の第30回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)において神戸市長賞を受賞し、さらに9月のアーティストック・ムーブメント・イン・トヤマ2017において特別賞及び北日本新聞社賞を受賞しました。これも先生方をはじめ、先輩方や保護者の方々の支えがあったからこそ成し遂げることができたと思っております。

3月17日(土)には第55回になる自主公演を開催致します。今年度の活動を締めくくると一大行事となるので、必ず成功させるよう尽力して参ります。

(寄稿/ダンス部主務 鈴木亮祐・知識3年)



2017年度 夏合宿にて

剣道同好会

筑波大学剣道同好会は本大学の前身である東京教育大学の頃より存在する、長い歴史を誇る団体です。本団体の目的は、剣道の稽古を通して心身を錬磨するとともに、それを通じた会員同士の親睦を深めることです。

平常時は週3回の通常稽古に取り組んでいる他、冬期には早朝からの寒稽古を、夏季・春季の長期休暇期間には午前から午後にかけての集中稽古や数日をかけた合宿を行っています。私たちはこれらの稽古に取り組む中で各々の改善すべき課題を見つけ互いに教え合い、時には大会にも臨んでいます。

また、より親睦を深めるために全員で楽しめるイベントの企画や、時折スキー等のような娯楽に出掛けるといったことも行っています。この性質上、趣味としての剣道を望む人々が多く所属する傾向があり、個性豊かな人々が混ざり合った賑やかな団体です。

(寄稿/剣道同好会主務 東谷一照・資源3年)

筑波大学ジャズ楽団が芸サ連に準加盟

2018年より筑波大学ジャズ楽団が芸術系サークル連合会に準加盟団体として所属した。当団体は2015年10月に一般学生団体として、「ビッグバンドジャズを通じて音楽の喜びを追求するとともに、大規模なエンターテインメントを研究していく」ことを目標に掲げて発足し、それまでの半年間はBIGBAND PROJECTというつくばアクションプロジェクト(T-ACT)団体として活動していた。

現在の活動人数は36人で、男女比は半々程度。学群1年生から大学院生まで幅広く所属している。

毎年3月頃に行うリサイタルを目標としながら、毎週月・木・土曜日の練習と不定期の依頼演奏を中心に活動している。今年度も20弱のイベント等で演奏しており、活動範囲も県外へ広がった。

うT-ACT団体として活動していました。

2年余りのサークル活動期間の中で、メンバーが増えてきて団体としての運営も安定してきました。しかしその中で新たな問題も出てきており、私たちは音楽活動を快適に行うことのできる環境が必要であると考え、芸術系サークル連合会への加盟に至りました。私たちのバンド名にある"Neopolis"というのは"新都市"を示しています。これは新都市であるつくば市を中心に活動していく中でつくば市を盛り上げていき、皆様に応援していただけるような地域に根ざしたバンドとなることへの思いが込められています。

現在は平成29年度の集大成として3月10日に行われる第2回リサイタルに向けて日々練習をしています。これは次の1年への第一歩でもあり、その後もずっと続いていく私たちの活動のためには紫峰会基金や沢山の方々によるご支援・ご協力が不可欠であると思います。まだサークルとして未熟な点も多々あるかと思いますが、私たち筑波大学ジャズ楽団Neopolis BIGBANDへの多大なるお力添えの程、よろしくお願ひいたします。

(寄稿/ジャズ楽団バンドマスター

石川廉・社工3年)



Neopolice

初めまして。私たち筑波大学ジャズ楽団は筑波大学唯一のビッグバンドサークルで、Neopolis BIGBANDという名前をつくば市をはじめ茨城県内を中心に活動しています。サークルとして発足したのは2015年10月のことで、それまではBIGBAND PROJECTとい



バンドマスター



東医体の試合の様子

医学アイスホッケー部

医学アイスホッケー部は現在プレイヤー22名マネージャー24名の総勢46名で活動しており、主に火曜木曜の週2回、氷上練習をしています。それに加え全学アイスホッケー部や他大学の練習に参加したり、陸上でのトレーニングやウエイトトレーニングなどを行い、日々チーム力向上に向け活動しています。また、練習のビデオや試合のビデオをマネージャーが撮影しており、プレイヤーはいつでも自分のプレーを確認し反省することができ、これもチームとしての成長につながっています。2017年は関東医歯薬科大会、全日本医師薬科大会では優勝を収めることができましたが、最大の目標である東日本医科学学生総合体育大会(以下、東医体)連覇は果たすことができず、悔しくも4位という結果に終わりました。2017年は再び東医体優勝をはじめその他の大会でも優勝できるようこれからも部員一同頑張っていきたいと思ひます。

(寄稿/医学アイスホッケー部代表 松本広成・医学4年)



2017年秋季関東医科学学生大会での集合写真

医学バスケットボール部

私たち医学バスケットボール部は、現在39名で活動しています。練習は週3回、主に第2体育館にて行っています。分解練習・ゲーム練習の中で部員同士で積極的にコミュニケーションを取り合うことを日々意識しています。また、近年はマネージャーの人数も増え、良い雰囲気練習を行っています。出場する主な大会として、春・秋の医学系の大会、冬に行われるつくばカップ、そして夏の東日本医科学学生総合体育大会(以下、東医体)があります。この中でも、東医体は最も規模が大きく、東医体ベスト4を目指して今年度も練習しています。今年度の春大会では1回戦敗退、東医体ではベスト8という悔しい結果でした。しかしここで立ち止まらず、秋以降も再び東医体ベスト4という目標を掲げて、日々努力しています。

(寄稿/医学バスケットボール部 高橋尚揮・医学3年)